

仕合わせの和

第194号
H. 30. 5. 1
(毎月1日発行)

しょうろうびょうし
生老病死

住職 谷川寛俊

仏教には四苦八苦という言葉があります。「苦」とは、自分の思い通りにならない事を表しており、「生・老・病・死」の4つを四苦と言います。

「生」は、生きる苦しみではなく、産まれてくる苦しみを表しています。それは赤ん坊が母親の産道を通る際の苦しみです。母親も苦しいけれど、産道を通る赤ん坊も苦しいのです。また「生」という感じがかたどっているのは、大地から植物が芽を吹き、上に向かって茎を伸ばしていく姿です。地面から芽を出せば、外がどんなに辛かろうと、もう土の中に戻る事は出来ません。1度生まれたら2度と後に戻れないという苦しみが本来の「生」なのです。ある人は次のように述べています。

「赤ん坊が泣きながら産まれてくるのは、苦しみのある世界へと送り出され、もう戻ることが出来ない」と知

っているからだ。だから厳しい世界を生き抜くために、手をしっかりと握りしめているのです」と。確かにそうかもしれない。そうやって、生まれてきた私達は、其の後、「老・病・死」の3つの苦しみを受け入れなければなりません。誰もが必ず老いていき、病になる可能性を持ち、そして間違いなく死を迎えます。これらの苦しみから私達は決して逃れることが出来ません。

お釈迦様の教えは「人々を苦しめている根本的な原因は何か？苦しみから解放されるにはどうすれば良いか？」という一貫したテーマでもありました。全ての人が避けることの出来ない色々な悩みに対し、「生きることは苦に満ちている。だから苦しいのは当たり前とも言えるのだ」とも説かれています。これだけ聞くと、何だか救いのような話に聞こえますが、お釈迦様が伝えたい話に聞こえませんが、むしろその解決方法であり、苦しみから解放され、安らかに生きるための方法を仏教の教えとして私達に残して下さったのです。

しかし私達は煩惱多い生身の人間です。いつも自分本位で物事を考え、時には嘘をつくこともあります。そして

「仕合わせの和」と打ち込んで頂ければ、ホームページにつながります。

編集・発行 玉蓮山 真成寺
編集部 谷川久仁子
TEL・FAX 0765-22-2268
携帯 080-3744-2523
こちらの番号でもお寺につながります。

他人を傷つけることもあるでしょう。仏様の教えからすれば、遠いところにいるかもしれない。

仏教には「煩惱即菩提(ぼんのうそくぼだい)」という教えがあります。煩惱があるからこそ、菩提という悟り(成仏)を目指すことが出来るというのです。その煩惱を少しでも消すことが出来る方法があります。それは自ら反省し、少しでも世のため、人のために尽くして、喜んでもらえるよう努力することであります。

世間ではよく、人生には3つの坂があるといわれます。1つ目は「上り坂」。2つ目は「下り坂」。3つ目は「まさか」と。この「まさか」という現実が起きる事があります。

つい先日、真成寺の大事な檀家さんが、立て続けに急逝されました。まだまだ働き盛りで、先程まで元気だった人が突然亡くなるわけですから、ご家族の嘆きはいかばかりか想像に難くありません。私自身も、夢では

ないかと思うほど驚きました。愛おしいければ愛おしいほど、悲しみもまた深いわけです。本当に人の命は儂く、明日の命は誰にも分からないものだ、この時ほど世の無常を実感させられたことはありませんでした。日蓮聖人のお言葉に「まず臨終のことを習うて、後に他事を習うべし」とご教示です。生あるものは必ず死す。人はやがて必ず死を迎えます。何時やってくるか分からない死を迎えた時に、後悔のないよう、常日頃からしっかりと法華経の信心に励み、周囲の人から惜しまれるような人生を歩みなさいよ、と教えられています。改めて、お二人のご冥福を心からお祈り致します。

